

平成26年度障害者地域自立支援協議会 就労支援専門部会 検討内容

第1回 (平成26年 7月 24日)・・・進め方と到達目標の確認、当事者部会への質問事項

第2回 (平成26年12月10日)・・・当事者部会報告、就労の促進及び継続を支援するための方策について、地域資源との連携の具体化、来年度以降にむけて

第3回 (平成27年 3月11日)・・・就労の促進及び継続を支援するための方策について、地域資源との連携の具体化、検討のまとめ

< H 26年度下命事項 >

- (1) 就労支援における現状と問題点についての情報共有
(2) 就労の促進・継続を支援するための方策及び、ネットワーク構築についての検討
(3) 大学や産業界などの地域資源との連携の具体化についての検討

○下命事項に対する検討経過

- 下命事項(1) 現状については、障害者雇用状況や就労支援センターの委託化等について情報共有を行った。
下命事項(2) 就労促進・継続の方策についてということで、昨年度、当事者部会から当事者の声として、「就労する現場での障害理解が必要」「自分に合った仕事を見つけられる仕組みが進むとよい」などの意見を掘り下げる検討を行った。
下命事項(3) 昨年度よりも一歩進める取組みとして、貞静短期大学の学園祭に準備段階から関わり、当日は施設利用者も含めて参加し、施設製品販売を実施した。

< 検討内容総括 >

(1) 就労の促進・継続を支援する方策

「就労する現場での障害理解」を得るための方策としては、身近に自分の味方になってくれる人をいかに作れるかということになる。性格や人間性として捉えられがちであるが、障害特性としての理解を現場レベルでも持ってもらえるよう、支援機関による重層的な支援が必要となる。
「自分に合った仕事を見つけられる仕組み」については、職業評価等、様々な手段はあるが、短期間で見つけられるものでもない。障害の状態に応じた通所先において見えてくる就労に対する評価も可能となることから、どこにも繋がっていない障害者については、いずれかの機関に継続して関わるよう促していくことが必要であるという結論に至った。

(2) 大学や産業界などの地域資源との連携

【参考資料1-2】

大学との連携については、学園祭への施設利用者も参加した施設製品販売の出店参加ができたことは大きな成果であった。このことを発信し、他大学等へ宣伝していくことが必要である。また、次年度以降も継続して行うことができるよう取り組む必要がある。

地域の商店会を中心としたNPO法人「街ING本郷」との連携については、今年度、日程調整等が進まず実現しなかったが、まずは障害者の理解を含め、相互理解を図っていく取組みを進めていくこととする。